

授業概要 (シラバス)

専門学校日本ホテルスクール

■科目基本情報

科目番号	GS102	分類	講義科目
授業科目名	国際文化比較論	英文授業科目名	Intercultural Relations
年度	2023年度	年次	昼間部 1年 ブライダル科
開講学期	通年	授業の方法	講義科目
単位数	2単位	年間授業時間数	28.8時間
科目区分	一般教育科目	授業コマ数	24コマ
担当教員名	井上正子	実務経験なし	
経歴			

■授業・科目情報

学習目標	『多様性の尊重』をテーマに、世界にはたくさんの国があり、それぞれ独自の文化や価値観を持っていることを理解し、その違い、異文化に興味を持ち、文化間の違いを認識・理解し、尊重しあう。 さらに、自国の文化・習慣・歴史・地理・観光等や社会情勢を理解し、『外客接遇に必要なことは何か』を考察するとともに、異文化コミュニケーションの必要性・重要性を認識する。		
教科書	『外客接遇の基礎』一般財団法人日本教育センター編		
授業計画	回数	内容	
	1	オリエンテーション: 授業の目標「多様性の尊重・異文化理解」	
	2	第1章『外客接遇とは?』: 訪日外国人数の推移⇒コロナ禍の前年までのインバウンドの情報提示	
	3	2の続き: 外客接遇の大切さ、今後の外客接遇には、何が必要か?	
	4	第3章『世界の言語』: 世界で使われている言語の数は? 世界の主要言語は?	
	5	しぐさの違い: コミュニケーションのツールのもう一つのしぐさについても国によって異なる多様性を理解	
	6	第4章『世界の宗教』: 世界の主要宗教の基本知識の習得⇒宗教が社会慣習や生活習慣、国民性などの価値観に影響	
	7	宗教上のタブー: 特に、イスラム教の食文化への影響は、外客接遇に重要である。	
	8	第5章『世界の社会慣習』: 各国の国民性⇒世界の国々の国民性には、どのような違いがあるか?	
	9	8の続き: 社会慣習・宗教・自然環境などが大きく影響していることを認識する。	
	10	『各国の家族観』: 大家族から核家族へ移行している国々、いまだに大家族の国々など、社会環境や宗教が影響	
	11	前期のまとめ: 様々な文化・宗教・言語など多様性の尊重の重要性・必要性を認識する	
	12	前期試験	
	13	第5章の続き: 『各国の家族観』それぞれの国の家族観にも宗教・社会環境等が大きく影響している現状を把握	
	14	『各国の結婚観』結婚観は、家族観、国民性、社会慣習等が影響していることを認識	
	15	『各国の仕事観』: 日本でも働き方改革が求められている現状をほかの国との比較で確認	
	16	働き方改革・休み方改革を検証⇒グループディスカッション	
	17	第6章『世界の生活習慣』世界の食事作法や、お風呂の入り方の違い、トイレの文化などについて考察	
	18	日本の温泉など公共浴場への外客の受け入れについて検証	
	19	上記の具体例から、多様性の尊重について、さらに深く考察⇒グループディスカッション	
	20	今後求められる外客接遇: 日本を知ろう⇒日本の魅力・文化・知識を身につけよう!	
	21	日本の魅力は? ⇒ユネスコに登録されている日本の世界遺産とは?	
	22	日本文化の再認識: 代表的な伝統文化・近代文化⇒日本の魅力はどこにあるか?	
	23	後期試験範囲の確認: まとめ・対策 ⇒ 多様性の尊重とは?	
	24	後期試験	
授業の進め方	今年度は対面授業に戻るため、基本的には、パワーポイントで各単元のポイントを説明しながら、『多様性の尊重』の具体的な例を提示する(写真や動画)が、それぞれが多様性の尊重をどのようにとらえているか、一方的な講義ではなく、グループワークの時間をできるだけ多く取って、学生同士のコミュニケーションを通しての理解をリードし、かつ、世界への視野を広げることを目指す。さらに、小テストを実施して、内容理解を図る。		
試験の実施方法	前後期各1回 試験期間に設定し、形式は文書試験とする。		
成績評価方法	本校の規定に基づき、全科において共通評価基準にて算出する。 ①試験得点 = 50% (10ポイント) ②出席率 = 50% (10ポイント) 上記の2つの項目をそれぞれ10ポイント(合計20ポイント)に置き換えて、そのポイントに応じてA,B,C,D,F評定を決定する。 尚、前提基準として①試験全体平均点の50%未満。または②出席率の50%未満に該当する場合には「F」評価とするが、通年教科の後期学年末の評価については、前期および後期全体の状況をもって算出する。		
関連科目	国際情勢、プロトコール		
参考書	『世界比較文化事典』『なるほど知図帳世界・日本』『日本』『池上彰の宗教がわかれば世界が見える』『日本人ジョーク集』他		
学生へのメッセージ	昨年、毎日のように『多様性の尊重』という言葉が新聞やテレビなどで飛び交っています。グローバル化が進む今日、世界に視野をひろげ、異文化への知識を深め、さらに国際情報への興味を持ち、そして、それらを外国人のゲストのおもてなしにぜひ活かしてほしいです。きっと外国人のゲストとの異文化コミュニケーションに役立ち、おもてなしが楽しくなると思います。		

以上